

I C A N N 政府諮問委員会 マラケシュ会合報告

令和元年8月8日（第55回 I C A N N 報告会）

総務省データ通信課ネットワーク化促進係長

内藤 めい

アウトライン

1. 政府諮問委員会（G A C）マラケシュ会合の概要 1
2. 欧州G D P Rとw h o i s 4
3. セカンドレベルにおける2文字の国及び領域コード 5
4. 「.amazon」問題 6

1. 開催日：2019年6月24日（月）～6月27日（木）
※ 2019年の2回目の総会（B会合：ポリシーフォーラム）
2. 開催地：マラケシュ（モロッコ）
3. 出席者：71か国・地域の政府、6の国際機関等（オブザーバー）
（ICANN # 65全体では、約1,100人以上が参加）
4. 主な議題：
 - （1）欧州一般データ保護規則（GDPR）とwhois
 - （2）セカンドレベルにおける2文字の国及び領域コード
 - （3）その他の議論（「.amazon」問題等）



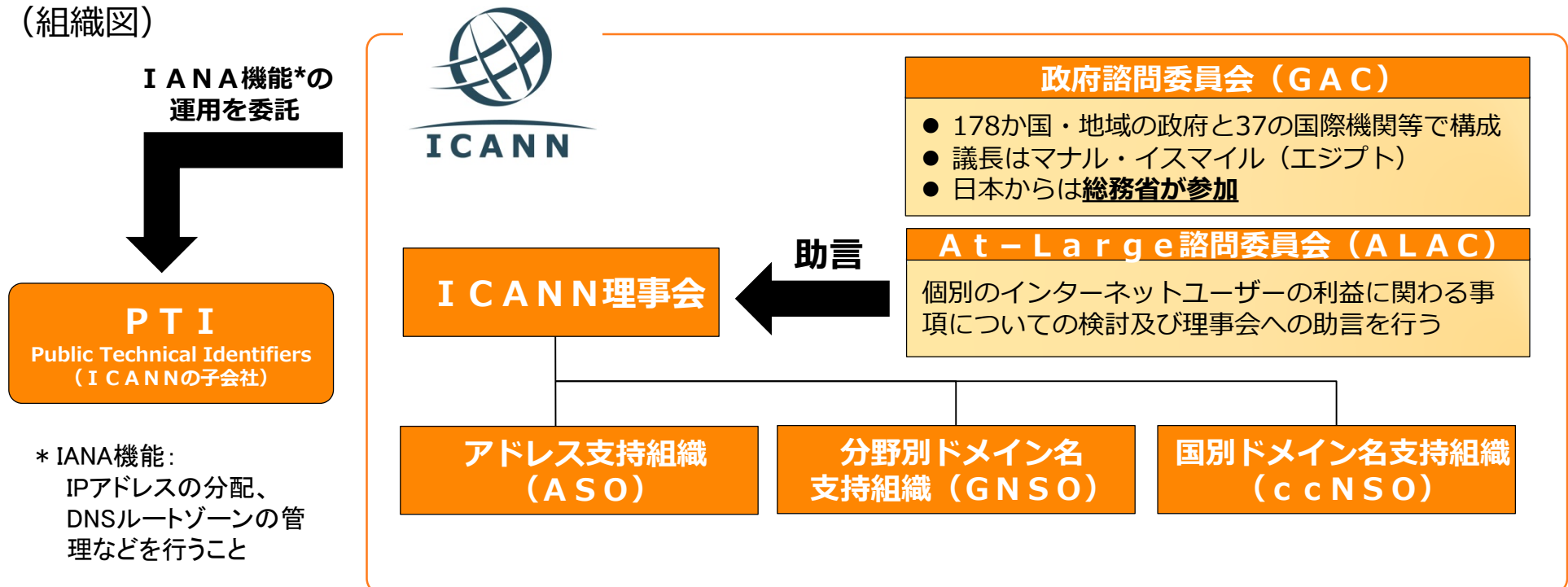
↑ ICANN第65回 GAC会合の様子

(参考) ICANNの概要

Internet Corporation for Assigned Names and Numbers

- 米国カリフォルニア州法に基づく非営利法人。
- 1998年に設立。本部はロサンゼルス。事務総長兼CEOはヨーラン・マービー（スウェーデン出身）。
- マルチステークホルダーによる監督の下、インターネットの重要資源の世界的な管理・調整業務を実施。
- 毎年3回の会合（A会合：6日間、B会合：4日間、C会合：7日間）を開催。
- 総務省は政府諮問委員会のメンバーとして参加。

(組織図)



1. 背景

- IPアドレスやドメイン名の登録者データベースであるWHOISは、昨年5月のGDPRの施行に伴い、多くのgTLDレジストリでは情報の大部分を非開示とする「**暫定仕様**」で運用中。
- 暫定仕様は2019年5月25日までの運用とされていたところ、5月20日までに「**Interim Registration Data Policy for gTLDs**」を運用するようICANN理事会より通知。ただ、レジストリ等契約主体に対し、暫定仕様の要求の維持を求めるものであり、実質は変わっていない。
- 各国の法執行機関等から非開示情報へのアクセスを求める声があることから、「**統一アクセスモデル**」を引き続き模索している。なお、統一アクセスモデルを利用して非公開部分も含む完全なWHOISデータへアクセスする資格があるのは、**正当な権利を持つ適格な利用者グループ群**が想定されている。
- 最終的な仕様にあたる「**Registration Data Policy**」の効力発生日は、作業チームから2020年の2月29日が勧告されている。

2. マラケシュ会合での主な議論

- ICANN理事会は、アクセスモデルの策定のために、**法的課題について欧州委員会と協議しつつ進める必要がある**としつつも、**欧州委員会はある程度「統一アクセスモデル」案が固まった段階でない**とコメントも出しようがないとの立場。
- そのため、作業チームがシステムデザインを淡々と作成。
- GACからは**明確な作業終了の日程**や、**作業範囲を明確にすべき**といった意見があったが、作業チームからは現在まさに議論中であるとの回答があった。

1. 背景

- gTLDレジストリがセカンドレベルに2文字の文字列を使用すること（例：www.jp.example）を希望する場合、国別TLD（例：www.example.jp）との混同を避けるため、レジストリが関係政府に対し60日間の意見募集を行うことをGAC助言とし、ICANNに求めてきた。
- しかし、2016年11月、ICANN理事会は、そのGAC助言の確保方策を十分に確認しないまま要件を緩和する決議を行い、政府に30日間の優先登録期間を設けつつも、要件を満たせば全てのレジストリについて登録を可能としてしまった。
- GACは緩和の経緯などを質すとともに、対応についても不十分と断じていた。
- なお、理事会は今後開放される新gTLDについては、セカンドレベルに2文字コードが登録された場合には関係政府に通知されるページを準備するとしている。

2. マラケシュ会合での主な議論

- ICANN理事会はGAC助言を適切に考慮していたとの立場であるが、GACは引き続き、懸念を有する政府との決議を継続するよう求めた。
- セカンドレベルにおける2文字コードの扱いはICANNとレジストリ間の契約で定められており、GACが介入できる余地が少ない点について説明がなされるべき等のコメントあり。
- セカンドレベルにおける2文字コードの検索ツールについて、モントリオール会合でフィードバックすることとされた。

1. 背景

- 2012年にアマゾンEUが申請を行ったgTLD “.amazon” は、アマゾン地域の政府（アマゾン協力条約機構ACTOの加盟国）の反対により手続きがストップしている。
- 4月17日に、ICANN理事会は前回（2018年10月）のICANN会合の理事会では、両当事者が共同で “.amazon” を管理する等のスキームの合意により手続きの再開が決議されたとしていたが、会合後、ACTOは「合意は十分ではなかった」として、改めて手続きのストップ維持を求めている。
- なお、今次会合までの間に両当事者やICANN幹部らの話し合いの場がセットされるも、ACTO側の都合によりキャンセルされるなどしていた。

2. マラケシュ会合での主な議論

- 4月17日の理事会決議に強い懸念を示すブラジル等ACTO諸国とICANN理事会メンバーとの間で激しい議論があった。**ブラジルなどは、いまなお「（アマゾンEUとACTOの）双方が合意可能な解決策」のためにアマゾンEUとの対話の継続を求め**、GACコミュニケにもその旨記載された。
- **GACはACTO諸国に概ね同情的**。ただし米国からは、これ以上の議論の継続は支持できないとのネガティブな立場が示された。
- **現在は4月17日の決議後にコロンビアから申立てがあったことから手続きが止まっている**が、今次会合での議論やGACコミュニケを踏まえてICANN理事会がどのような対応をするのが注視されている。
- また、「.amazon」と同様に各国政府にとってセンシティブな文字列は他にもあり得ることから**「.amazon」が次回（早くて2022年）の新規gTLD申請受付における悪しき前例とならないよう慎重を期すべき**との意見もあった。

1. 議長 (任期2019年3月～2021年3月 (2年))

<任期 2 期目>



Manal ISMAIL
(Egypt)

<現職>

・エジプト国家電気通信規制庁

<ICANN関連経歴>

・GAC副議長 (2009年)
・理事会・GAC勧告の実施グループ (BGRI) 議長

➤ 「議長は連続2期×2年まで」、
「副議長は連続2期×1年まで」、
そのため副議長のうち3名が改選。

➤ 2019年8月1日時点で、
▪ Pua HUNTER (クック諸島)
の推薦あり。

2. 副議長 (5名) (任期2019年3月～2020年3月 (1年))

<任期 1 期目>



Luisa Paez
(Canada)

イノベーション・科学・
経済開発省 (ISED)

<任期 1 期目>



Olga Cavalli
(Argentina)

外務省
シニアアドバイザー

<任期 2 期目>



Chérif DIALLO
(Senegal)

郵政通信省ICT
担当課長

<任期 2 期目>



Par Brumark
(Niue)

スウェーデン自由党所属の
スウェーデン人 (2010年から
ニウエ政府のアドバイザー)

<任期 2 期目>



Thiago Jardim
(Brasil)

外務省

(参考) 参考URL

(1) G A C マラケシュ会合のコミュニケ (成果文書)

<https://gac.icann.org/contentMigrated/icann65-marrakech-communicue>

(2) G A C 神戸会合報告会資料

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20190528-ICANN/icann54-2-3-naito.pdf>

ご静聴ありがとうございました。